

# quotation Manual

Naoki Kaneko

---

---

## 目次

---

---

1. 簡単な使い方 .....	1
2. デザインの設定 .....	3
2.1. 引用文の全体のデザインを設定する関数について .....	4
2.2. 引用先の表示のさせかたを設定する関数について .....	4

---

---

## 1. 簡単な使い方

---

---

引用を表示するためのコマンド、`+quotation` を提供します。

読み込みは `@require: quotation/quotation` で、モジュール名は `Quotation` です。

```
+quotation <
  +p{text}
>
```

のようにして、引数に `block-text` を与えて使用します。

このようになります。↓

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Ut purus elit, vestibulum ut, placerat ac, adipiscing vitae, felis. Curabitur dictum gravida mauris. Nam arcu libero, nonummy eget, consectetur id, vulputate a, magna. Donec vehicula augue eu neque. Pellentesque habitant morbi tristique senectus et netus et malesuada fames ac turpis egestas. Mauris ut leo. Cras viverra metus rhoncus sem. Nulla et lectus vestibulum urna frin-

gilla ultrices. Phasellus eu tellus sit amet tortor gravida placerat. Integer sapien est, iaculis in, pretium quis, viverra ac, nunc. Praesent eget sem vel leo ultrices bibendum. Aenean faucibus. Morbi dolor nulla, malesuada eu, pulvinar at, mollis ac, nulla. Curabitur auctor semper nulla. Donec varius orci eget risus. Duis nibh mi, congue eu, accumsan eleifend, sagittis quis, diam. Duis eget orci sit amet orci dignissim rutrum.

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐しいとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢ったがこんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうしてその穴の中から時々ぷうぷうと煙を吹く。どうも咽せぼくて実に弱った。これが人間の飲む煙草というものである事はようやくこの頃知った。

このようになります。↑

また、引用先を表示したい場合などはオプション引数の形で与えることができます。

```
+quotation ?:({title}) <
  +p{text}
>
```

の形にするだけです。

このようになります。↓

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生という

のは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐しいとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢ったがこんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうしてその穴の中から時々ぷうぷうと煙を吹く。どうも咽せぼくて実に弱った。これが人間の飲む煙草というものである事はようやくこの頃知った。

夏目漱石（1906）,「吾輩は猫である」

このようになります。↑

---

---

## 2. デザインの設定

---

---

このパッケージが提供する `quotation-scheme` という関数を使うことで好きなデザインのコマンドを定義することができるようになります。この関数の引数は

- (1) `context`
- (2) 引用文の全体のデザインを設定する関数
- (3) 引用先の表示のさせかたを設定する関数
- (4) 引用先
- (5) 本文

です。型はそれぞれ

- (1) `context`
- (2) `(context -> ((length*length*length*length) * deco-set)) option`
- (3) `(context -> inline-text -> block-boxes -> block-boxes) option`
- (4) `inline-text option`
- (5) `block-text`

となっています。この関数の戻り値は `block-boxes` 型です。

## 2.1. 引用文の全体のデザインを設定する関数について

`ctx` を受け取って左右上下の余白の組と `deco` を返す関数です。`indent-2-size-ja` と `indent-2-size-en` を提供しており、デフォルトでは `indent-2-size-ja` が使われます。

## 2.2. 引用先の表示のさせかたを設定する関数について

タイトルとボディを受け取ってタイトルを配置する関数です。フォントを変えたい場合や、表示位置を変えたい場合などに弄る事になると思います。`set-bottom-left` を提供しており、デフォルトではこれが選ばれます。

実はこれらの設定用関数は `+quotation` にも与えることができ、それぞれオプション引数の形で、引用先の次に与えます。